



最近の県内経済情勢

令和5年4月25日

財務省関東財務局

前橋財務事務所

問い合わせ先
前橋財務事務所 財務課
電話 027-896-2908(直通)

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、供給面での制約の影響がみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	↓

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる。雇用情勢は、足踏みの状況にある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる	↓
雇用情勢	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	足踏みの状況にある	↓
設備投資	4年度は増加見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	4年度は減益見込みとなっている	4年度は減益見込みとなっている	→
企業の景況感	「下降」超幅が縮小している	「下降」超幅が拡大している	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	→
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

ホームセンター販売額は前年を下回っているものの、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額、家電大型専門店販売額、乗用車販売は前年を上回っている。また、宿泊・観光は持ち直している。全体としては、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 値上がりの影響もあり客数は減少している。購入点数は前年と比較して若干減少している。(ホームセンター)
- 10~12月は新型コロナウイルスの感染が拡大していたが、今期はスローダウンしてきたため、業況は良くなっている。また、前年はまん延防止等重点措置で売上や来客数が減少していたが、今年は今行動制限が緩和してきているため、売上や来客数は増加してきている。特に若年向けの婦人服は売れ行きが良くなっている。(百貨店)
- 今期の売上は4年7~9月期から10~12月期にかけての伸びより低くなっている。顧客は価格に敏感になっており、お買い得感のある商品にシフトしている。(スーパー)
- 売上は前年比で大きく伸びている。要因としては、コロナ収束ムードの高まりや外出需要の回復、旅行関連やアミューズメント関連の需要がある事や、レストランが好調な事が挙げられる。(ショッピングセンター)
- 販売動向は好調。要因としては、客数が2月から前年を超えてきている事と、買上点数は変わらないが、買上単価の上昇により客単価が伸びた事が挙げられる。(コンビニエンスストア)
- 外出する機会が増えた為、化粧品が好調、アレルギー性鼻炎薬も好調である。前年はシャンプー、洗剤等が好調であったが、外出する機会が増えた反動で、家庭内用品は節約傾向にある。(ドラッグストア)
- 全国旅行支援により10~12月は入込客が好調であったが、1~3月も変わらず好調。例年2~3月は、卒業旅行の学生で賑わうが、今年も学生のグループが多く来訪いただいている。(業界団体)

■ 生産活動 「供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる」

生産活動は、食料品は増加しているものの、輸送機械、汎用機械・生産用機械・業務用機械、化学は減少しており、全体としては、供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる。

- 半導体不足の影響により、1~3月期の生産数量は前期比で約3割減となっている。受注に対して生産が追いついていない状況が続いており、受注残も増えている。(輸送機械)
- 半導体や電子部品は一部で入手しにくい状況が続いており、価格も上昇している。代替の安価な部品でも入手困難なことがある。(業務用機械)
- 車載向け製品は、PC・スマホ向けと比べて需要が高いものの、部品不足により生産調整をしているメーカー等の影響により、生産数量はやや減少している。(化学)

■ 雇用情勢 「足踏みの状況にある」

新規求人数は減少しており、有効求人倍率も低下している。雇用情勢は足踏みの状況にある。

- 生産補助や総務等の間接部門は過剰感があるものの、現場で働く作業員は不足している。(製造業)
- 人手は不足しており、特に不足しているのは、製造のマネジメントができるオペレーター。(製造業)
- 従業員はギリギリ確保できているといった状態。人手確保が難しくなっている。(製造業)
- 従業員の過不足感について、職人をギリギリ確保している状態であるものの、全体で見れば過剰感も不足感もそれほど生じておらず、概ね適正。(建設)
- 正社員、非正規社員ともに不足しており、不足分は派遣社員に頼っている。新型コロナウイルスの影響により転職してきた方が、コロナウイルスの緩和により元の仕事に戻っていることも不足の要因となっている。(小売業)

■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では前年比26.1%の増加見込み、非製造業では同▲3.8%の減少見込みとなっており、全規模・全産業では同6.5%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「4年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では前年比22.4%の増益見込み、非製造業では同▲7.8%の減益見込みとなっており、全規模では同▲0.3%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が拡大している」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 先行きについては、5年4~6月期に「均衡」となり、同7~9月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲は前年を下回っているものの、持家、貸家は前年を上回っており、全体では前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、国は前年を下回っているものの、県、市町村は前年を上回っており、全体では前年を上回っている。



最近の県内経済情勢 (資料編)

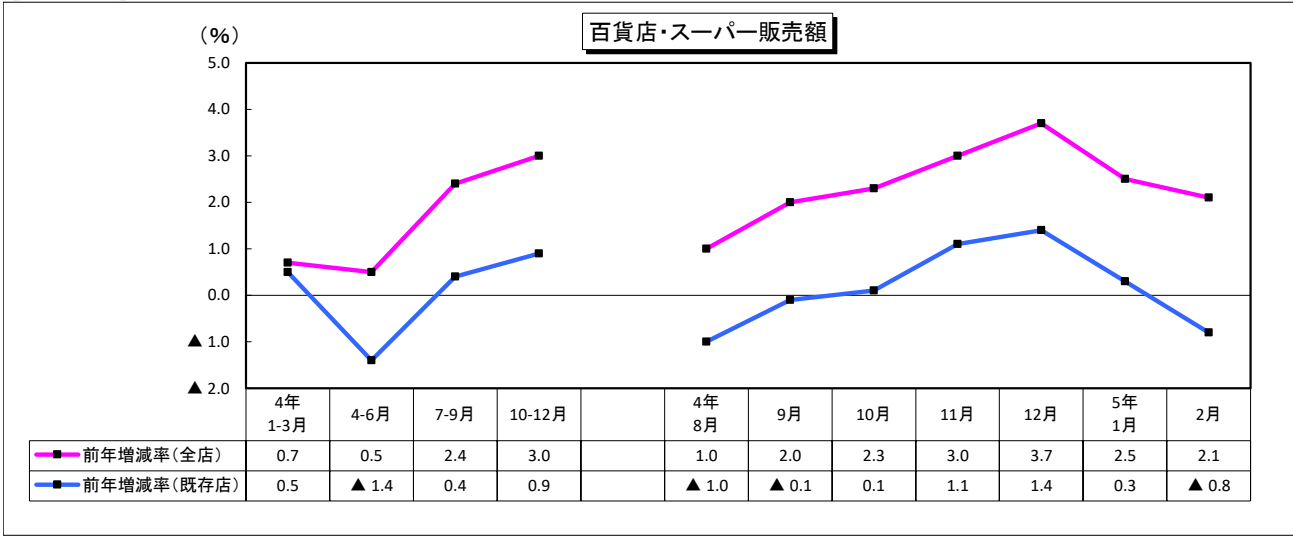
令和5年4月25日

財務省関東財務局
前橋財務事務所

1. 個人消費

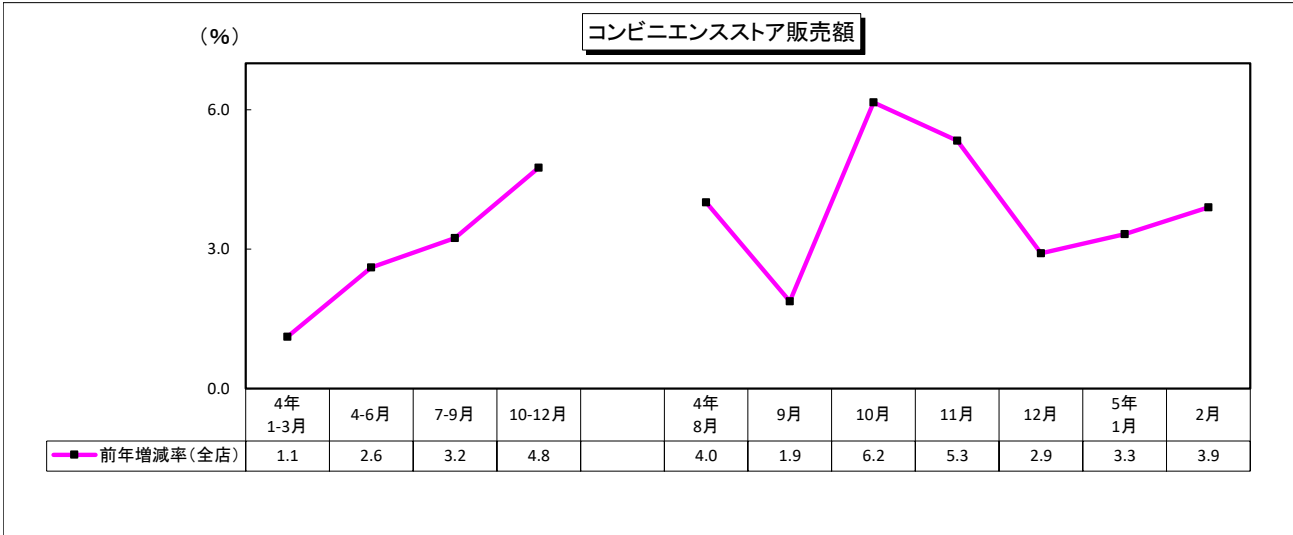
持ち直している

[グラフ1]



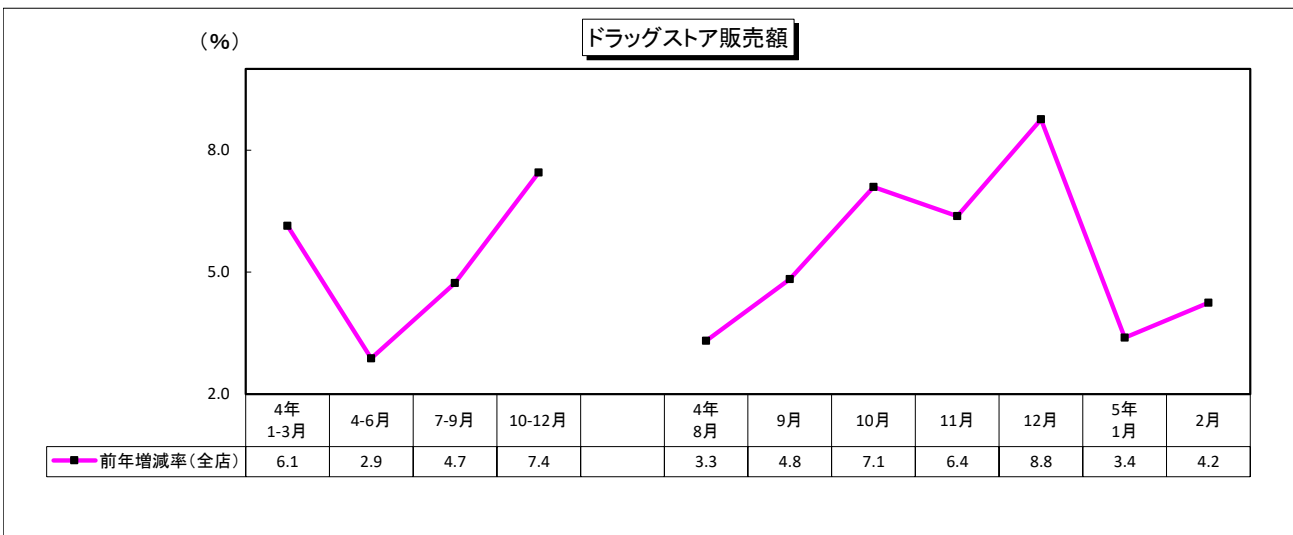
[経済産業省]

[グラフ2]



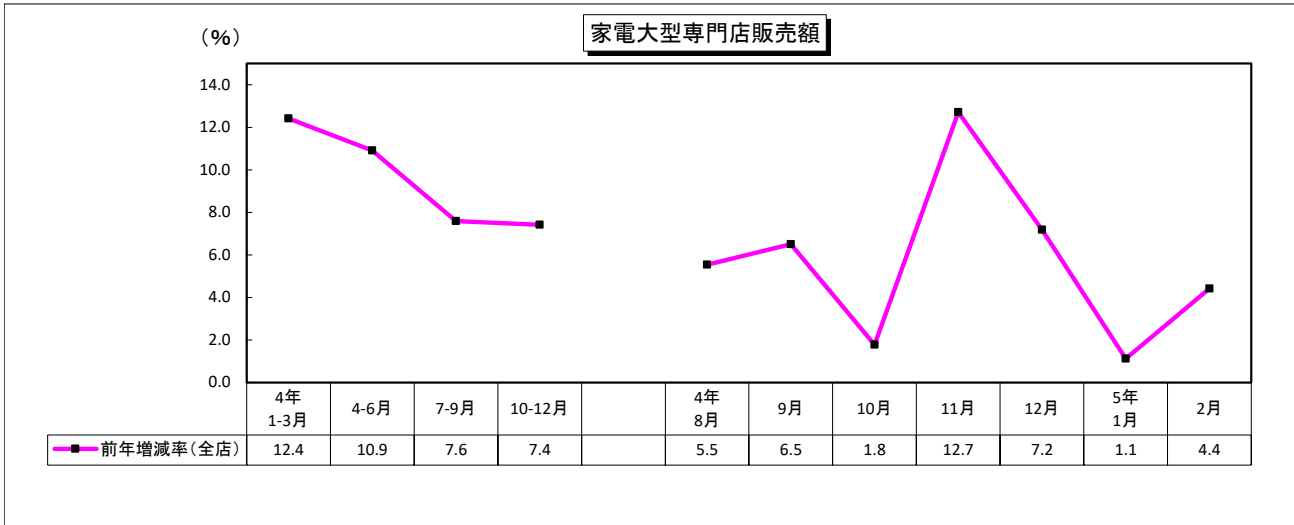
[経済産業省]

[グラフ3]



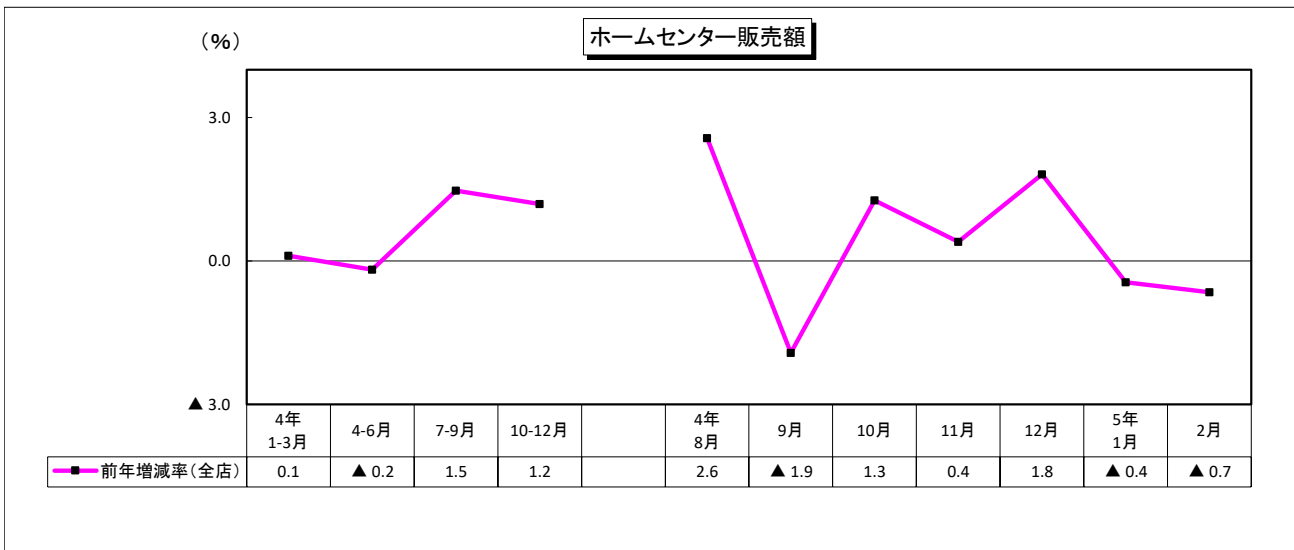
[経済産業省]

[グラフ4]



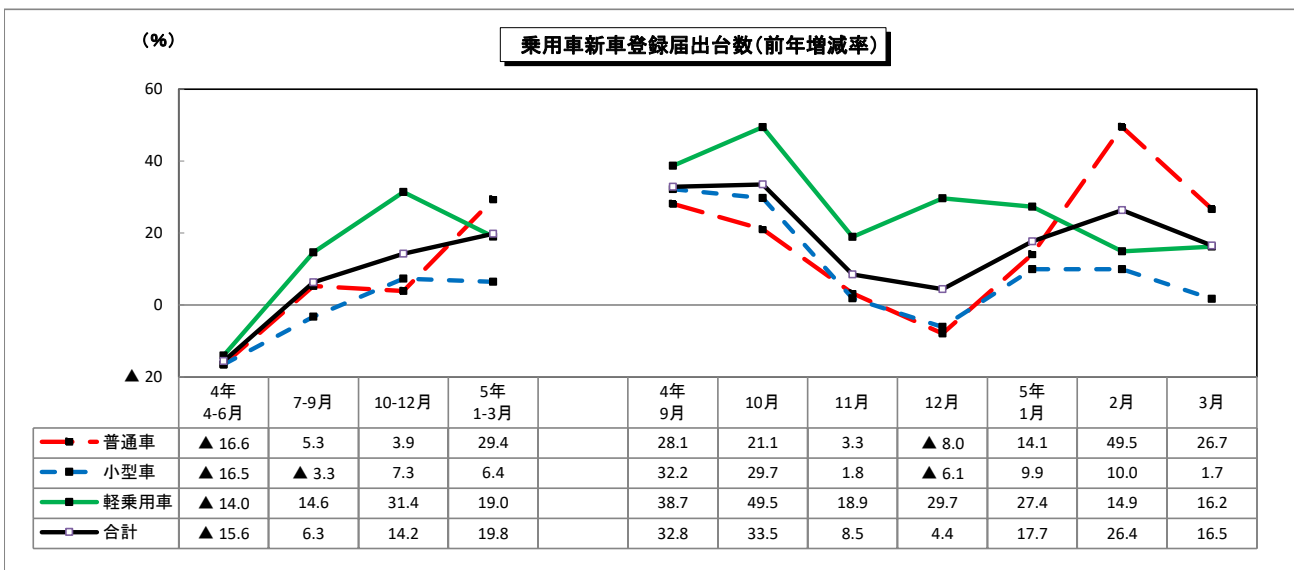
[経済産業省]

[グラフ5]



[経済産業省]

[グラフ6]

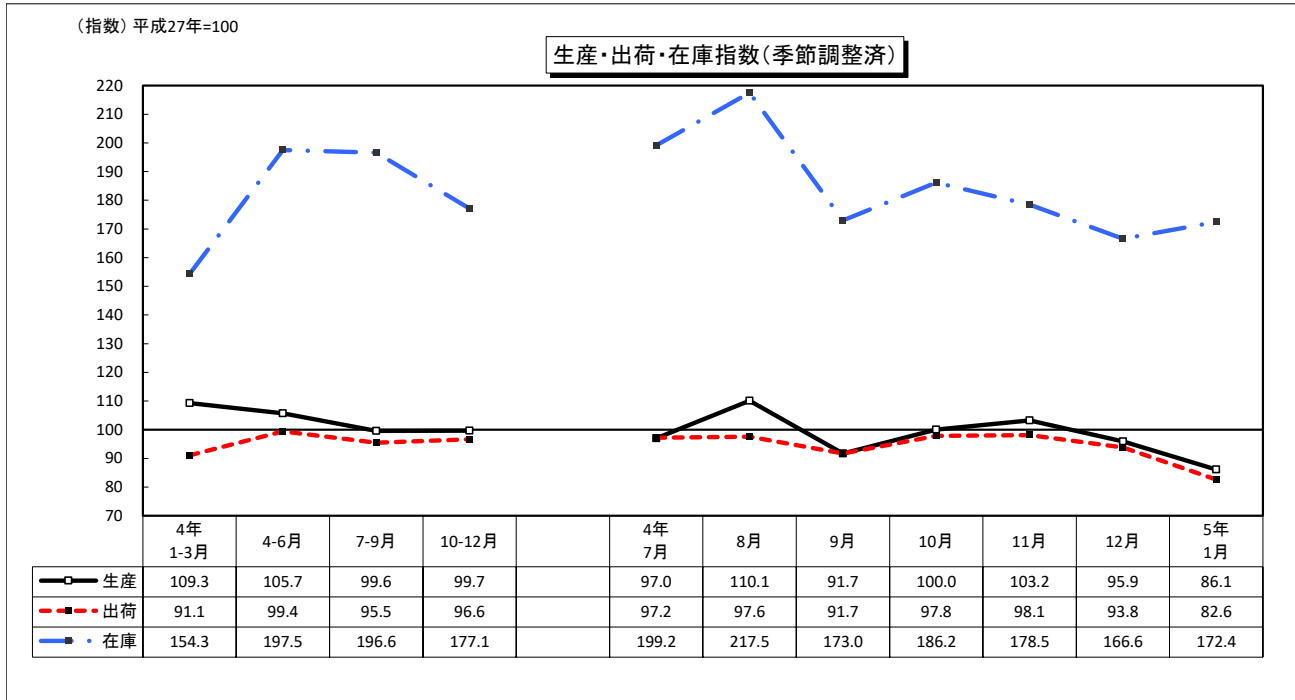


[日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会]

2. 生産活動

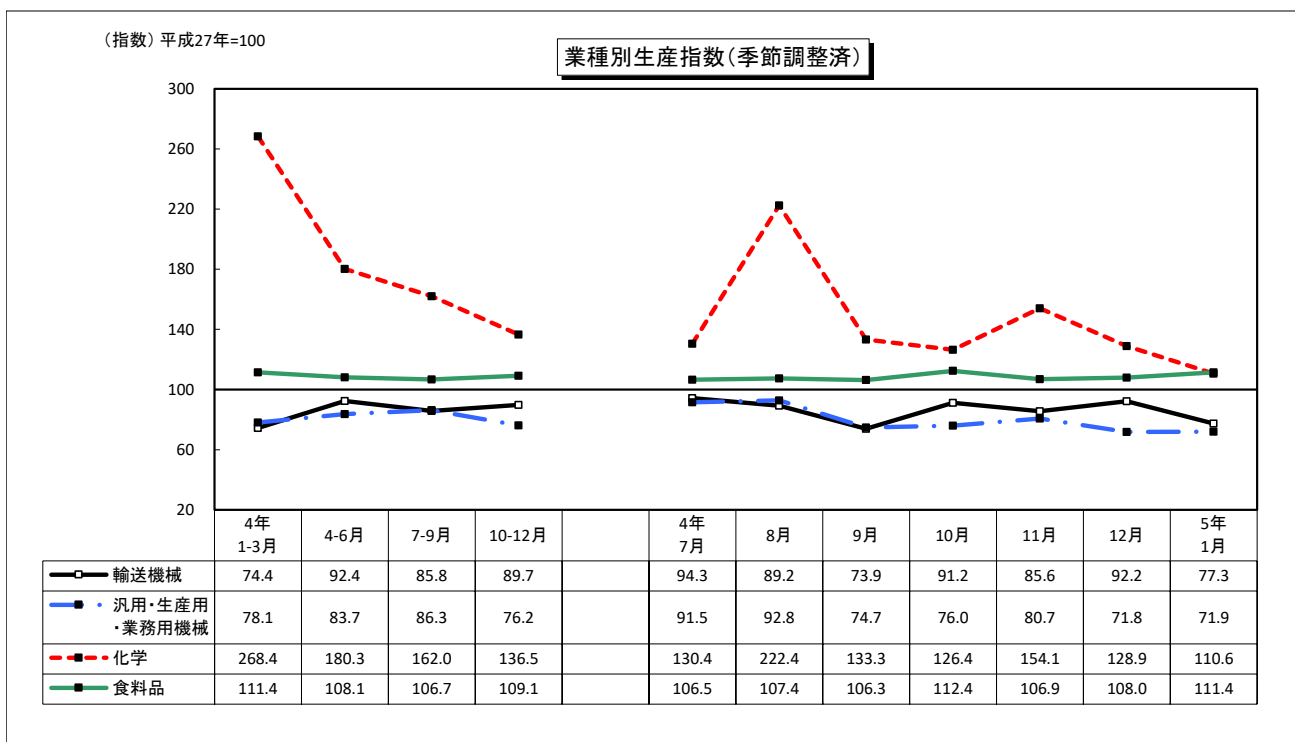
供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる

[グラフ7]



[群馬県]

[グラフ8]

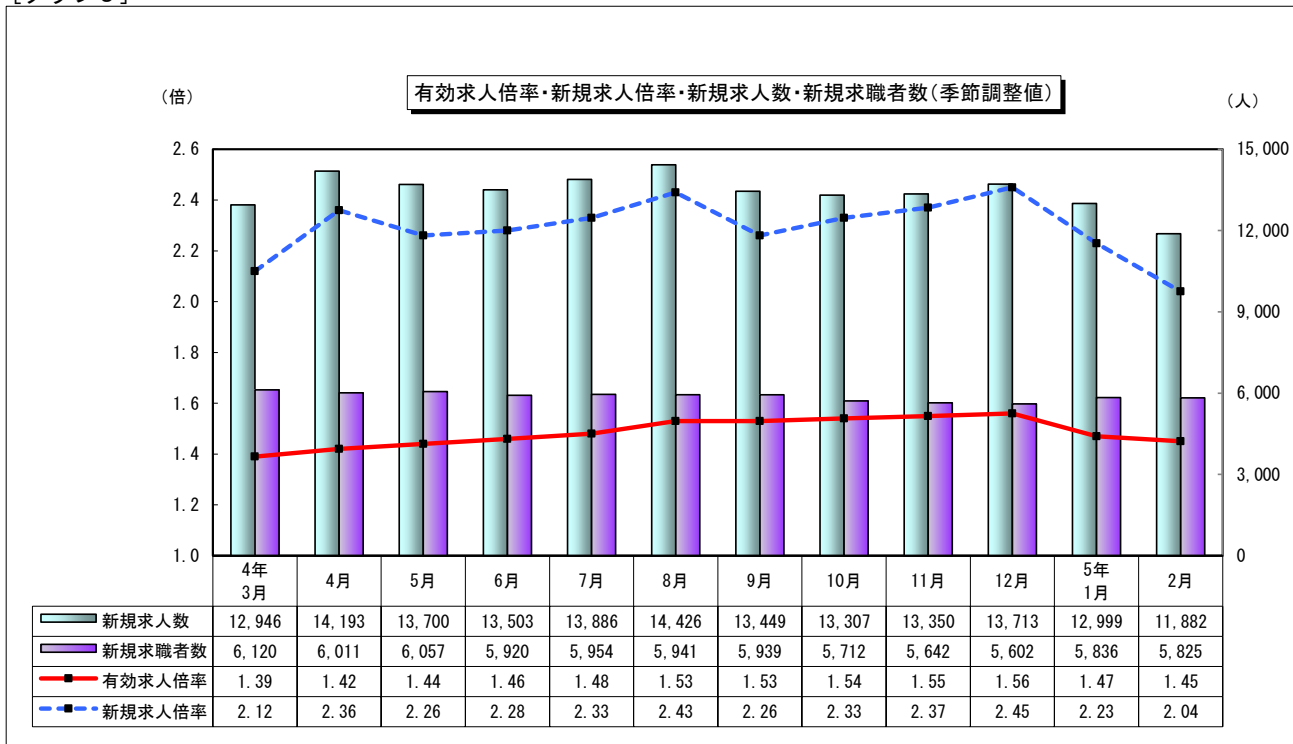


[群馬県]

3. 雇用情勢

足踏みの状況にある

[グラフ9]

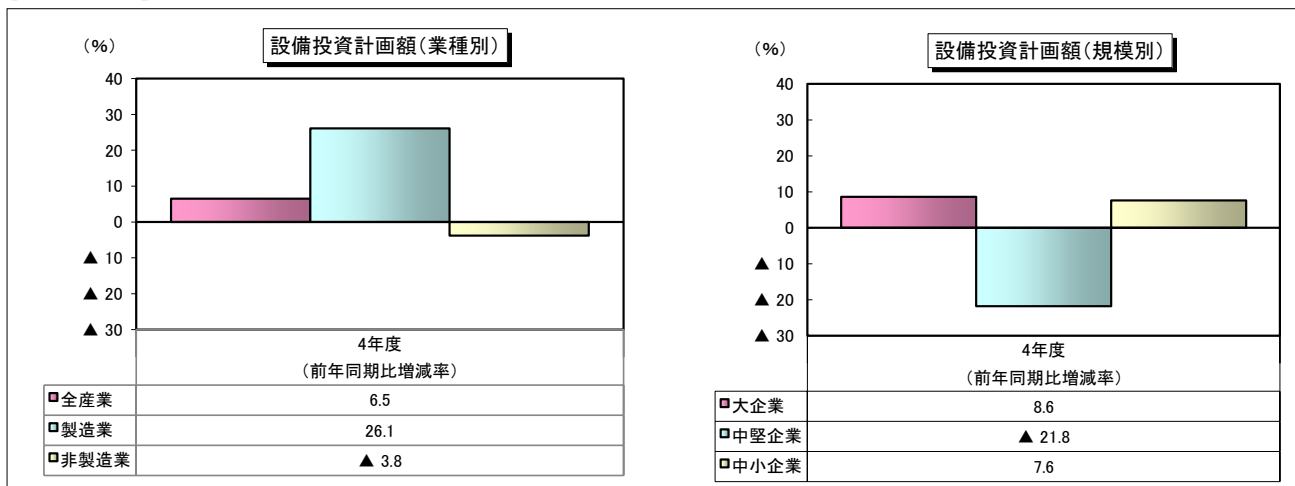


[厚生労働省]

4. 設備投資

4年度は増加見込みとなっている

[グラフ10]

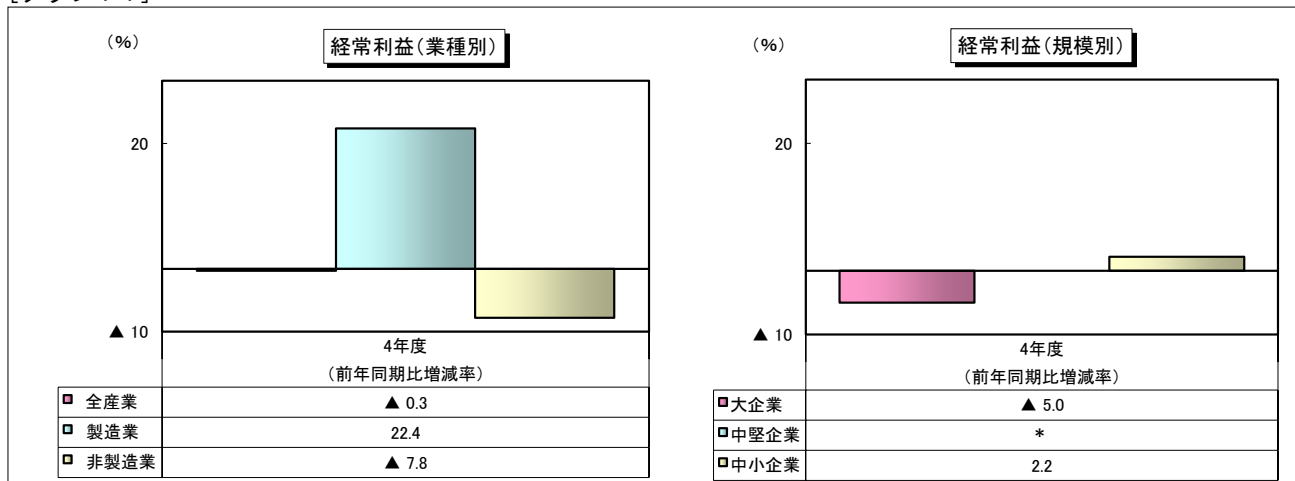


[前橋財務事務所 (法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益

4年度は減益見込みとなっている

[グラフ11]



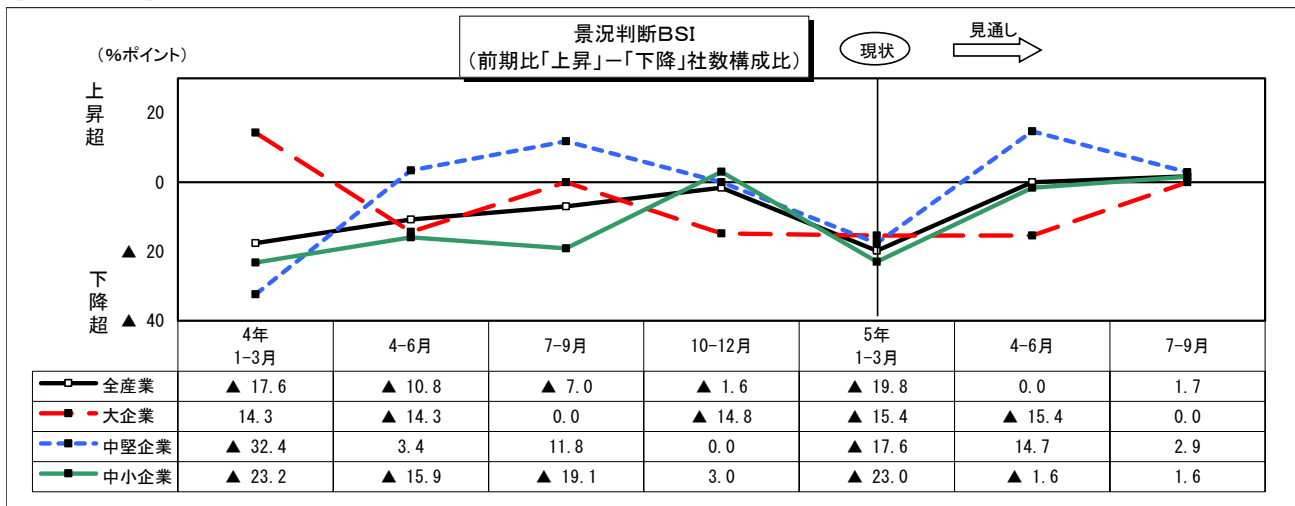
(注) 「*」は黒字転化を示す。

[前橋財務事務所 (法人企業景気予測調査)]

6. 企業の景況感

「下降」超幅が拡大している

[グラフ12]

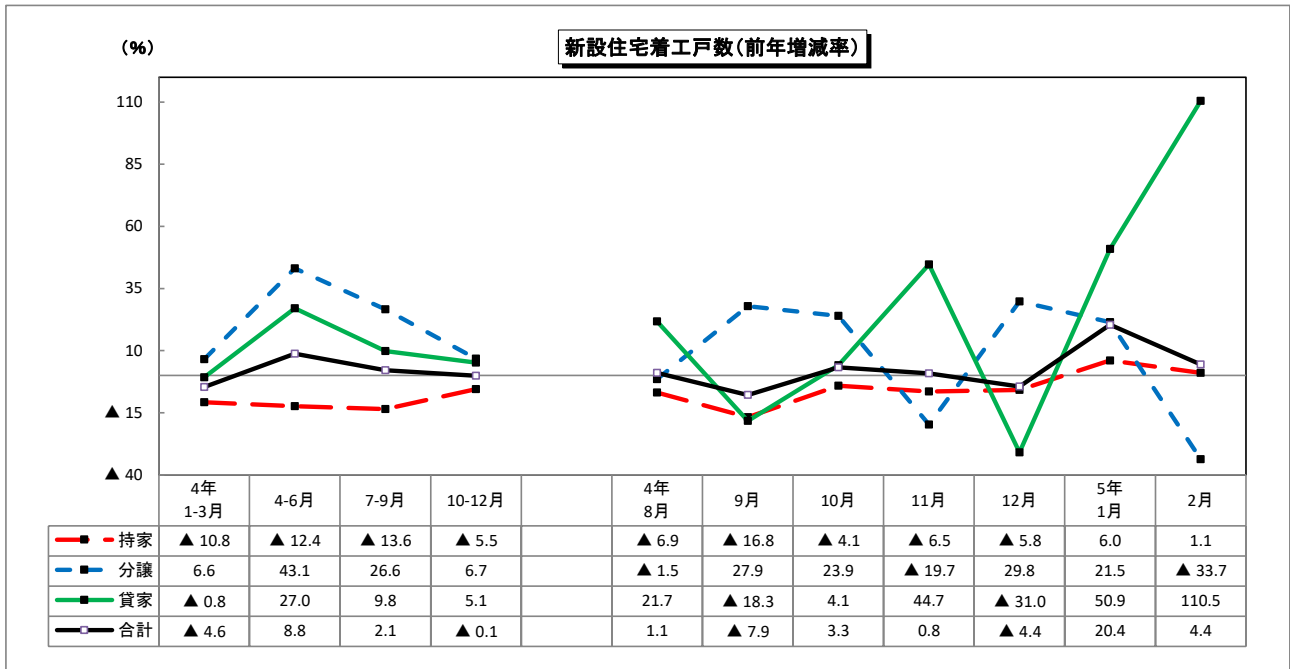


[前橋財務事務所 (法人企業景気予測調査)]

7. 住宅建設

前年を上回っている

[グラフ13]



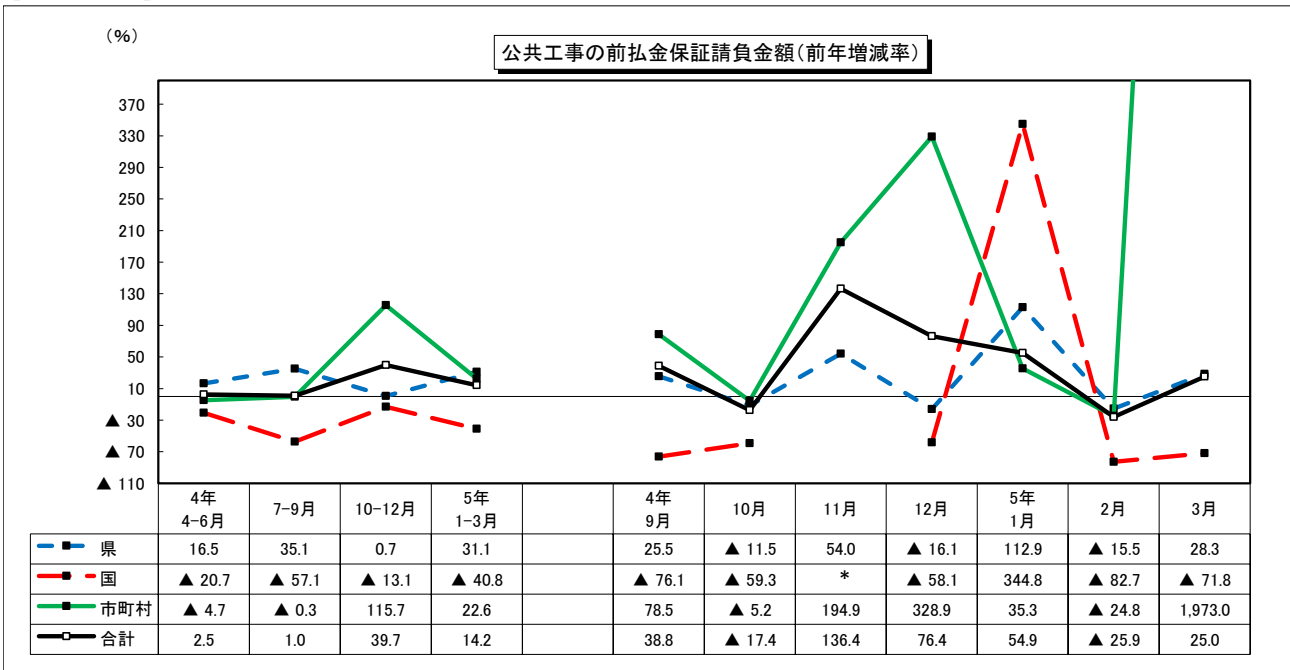
(注) 合計には給与住宅を含んでいる。

[国土交通省]

8. 公共事業

前年を上回っている

[グラフ14]



(注1) 四捨五入の関係上、各発注者の総和は計に一致しない場合がある。

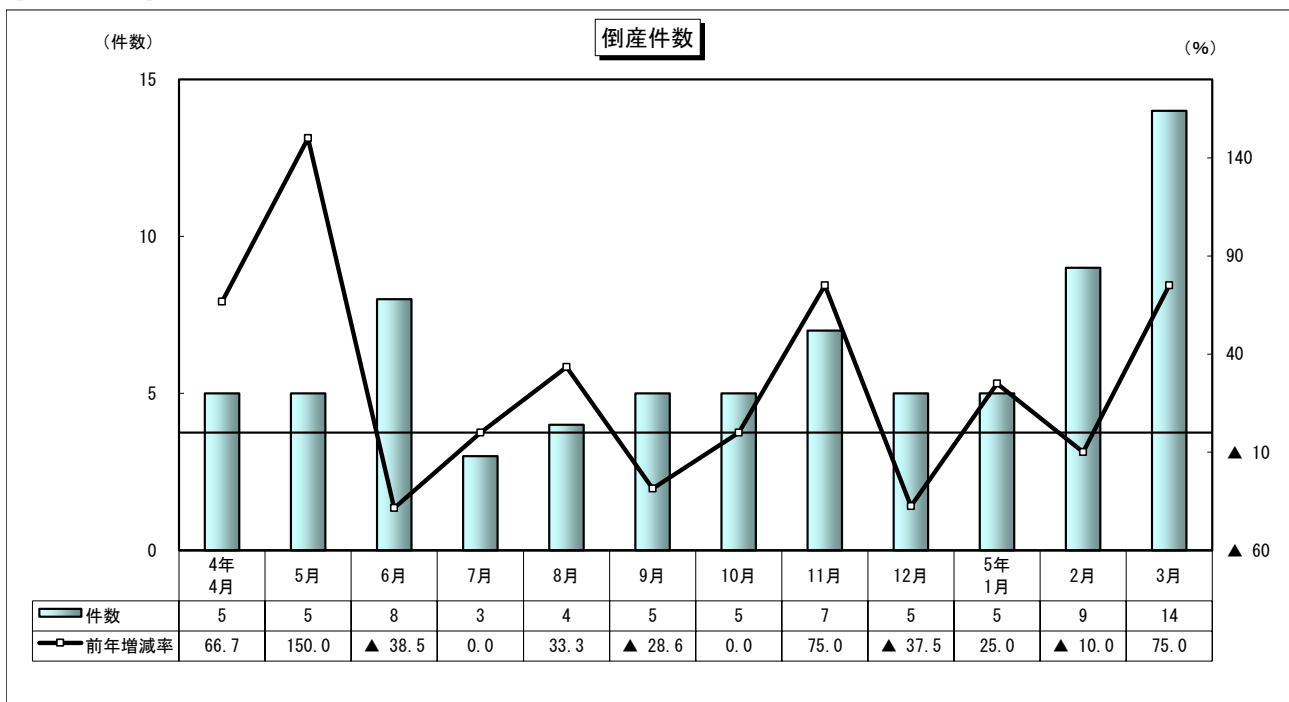
[東日本建設業保証株式会社ほか]

(注2) 令和4年11月の「国」の前年比は、計算不能な数値のため、集計外としている。

9. 企業倒産

負債額は前年を下回っている

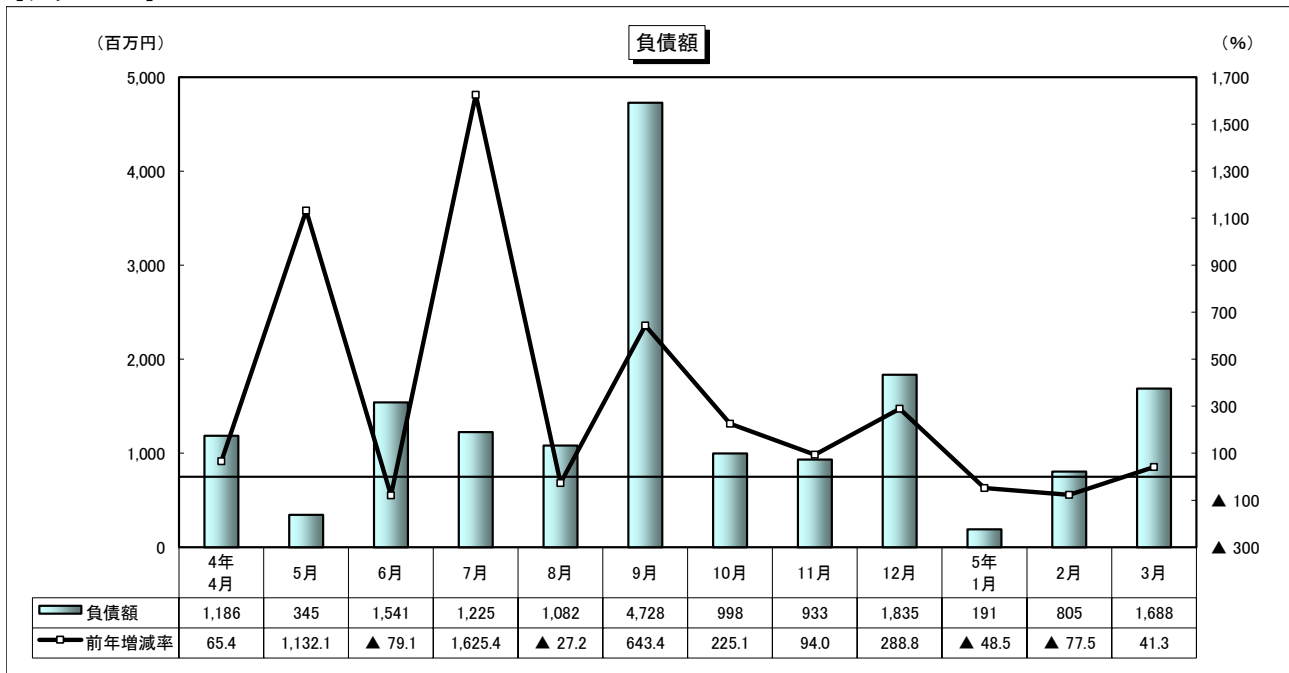
[グラフ15]



(注) 調査対象：負債総額1,000万円以上

[株東京商工リサーチ前橋支店]

[グラフ16]



(注) 調査対象：負債総額1,000万円以上

[株東京商工リサーチ前橋支店]